

平成25年度学術情報リテラシー教育担当者研修
グループ討議成果物

従来型からの脱却を 図るためには

情報リテラシー教育を
アクティブラーニングに

テーマ : d 人材育成 / 5班

発表日 : 2013/10/18

会場 : 大阪大学



抱えている問題点

- 職員の異動時にスキル継承ができない
- マニュアルがそもそもないから作りたい
- マニュアルを作る時間がないし内容の更新ができないし・・・
- そもそも人手が足りない
- ていうか棚も足りない（←笑うところ）

従来型ガイダンスの問題点とは

- 専門用語を使いまくる

例) 書架に配架、ABC、ブックトラック...など

- 質問ができない
- 講師が一方向的にしゃべる →寝る
- データベース (OPACなど) の使い方だけを教えている

そうだ！
アクティブラーニングにしよう！



問題の解決のために

「図書館と学生の協働」

①人手不足⇒上級生が下級生に教える

- 新入生（聞く側）も積極的に参加させる
- 上級生（教える側）にも定着させる

②マニュアルがない⇒土台のマニュアルをつくる

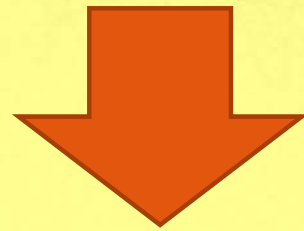
- 土台は図書館員がつくる
- マニュアルの内容は教える側を担当した学生の声を反映し、毎年更新していく

「データベースを使って100周年イベントの企画書を作ろう！（仮）」

- 使用するデータベースは
Japanknowledgeの中の国史大辞典
- 全文検索でキーワード「1910（100年前の年号）」を検索する
 - ビタミンBが発見された
 - エーザイ（チョコラBB）
 - Japanknowledgeの中の会社四季報で、
エーザイを調査

習熟度を測る

- ワークシートを提出
- アンケートを提出



マニュアルの改善に
つなげる！

Demand \equiv needs



ご静聴ありがとうございました

